

第6学年 自立活動学習指導案

1 単元名 地震から命を守ろう（内容2－（2）状況の理解と変化への対応に関すること）

2 単元の目標

地震が起こったときに想定される危険について予測し、命を守るためにはどのように行動すればいいのかを順序立てて考えることができる。

4 本時の学習

(1) 目標

地震の際には、どのような場所が危険であるかを知り、状況に合わせて、安全に避難できる方法について考えようとする態度を育てる。

(2) プログラミングを取り入れる効果

本学級の児童は、スタートとゴールについては意識できるが、途中の過程にまで意識を向けることが難しい。そこで、プログラミングカーを走らせることにより、スタートからゴールまでのつながりを無理なく意識させ、途中の危険にも注意を向けることの大切さを感じさせることができる考えた。

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点（※評価）
1 地震時に想定される、避難経路上の危険にはどのようなものがあるか考える。 地震しんが起きたとき、自分の命を守るために、どのようにひなんしたらいいか考えよう。	・ プログラミングカーを走らせる際に、経路上に障害物を置くことで、避難途中にも危険箇所が存在する可能性に目を向けさせる。
2 経路上の危険を予測し、安全に避難できるルートをプログラミングする。	・ 危険と思う場所には日印の障害物を置かせ、それを回避するようにプログラミングさせる。 ・ プログラミングの内容をふり返ることができるように、命令カードを順番に並べさせておく。 ※ どのような場所が危険であるかを予測しながら、状況に合わせて、安全な避難の方法を考えている。
3 考えた避難経路を発表し合う。	・ どのようなことに気をつけて避難経路を決めたのか発表させ、避難時には、安全で素早い行動が求められていることに気づかせる。
4 本時の活動をふり返り、避難の仕方についてまとめる。	・ 避難するときに気をつけることを、短い言葉でまとめさせ、避難時のスローガンとする。

(4) 評価及び指導の手立て

「十分満足できる」と判断できる状況	危険の回避と短時間での避難行動という2つの点に着目し、最適な避難経路を考えることができている。
「おおむね満足できる」状況にするための手立て	危険箇所の例を提示したり、危険だと判断した場所にはマップ上に目印を置かせたりすることで、危険箇所を意識しながら、避難経路を考えることができるようにする。



【授業の概要】

本単元は、地震が起こったときに想定される危険について予測し、命を守るためにはどのように行動すればいいのかを順序立てて考える力をつけることを目標として、設定した。

授業では、初めに、地震時に想定される町中の危険にはどのようなものがあるかをイラストやこれまでの学習を元にして考えた。次に、緊急避難時には、それらの危険を予測しながら行動することが必要であることを確認し、児童それぞれに、安全な避難経路を考えさせた。その際、カードをかざすことで命令を実行させることのできる「プログラミングカー」を用いた。考えた避難経路を説明することで、避難経路を決めるときに意識したポイント「危険の回避」と「短時間での避難」という重要なキーワードに気づかせた。学習の最後には、児童の挙げたキーワードを取り入れて、避難時のスローガン「避難するときは、安全で、はやく避難できる道を選ぼう」を作った。



【プログラミングを取り入れた効果】

本学級の児童は、スタートとゴールについては意識できても、途中の過程にまで意識を向け続けることが難しい。プログラミングを取り入れることで、無理なくつながりを意識させ、途中の危険にも注意を向けさせることができると考えた。

地図のみを用いて避難経路を考えた場合、スタート地点とゴール地点、その間にある危険箇所という複数の「点」で問題を捉えることになる。しかし、プログラミングカーを安全に走らせるためには、それらの点をいかにつなぐか、そのつなぎ方が本当に最適かを考える必要性が自然と生じる。実際、複数の事象を個別に捉えて、行動に計画性を持ちにくい児童も、危険箇所を予測した後、危険箇所を回避する経路はどこかを考え、それに基づいてプログラミングを組んでいくことができた。



【授業を終えて】

「通常の授業の目標を達成するために、プログラミングを取り入れてみる」ということで授業計画を立て始めたが、実際に取り入れてみると、「プログラミングのための授業」にならないようにするのは、非常に難しいと感じた。課題の設定の仕方や学習者の意識を課題につなぐための手立てなど、きめ細やかな配慮が必要であった。教材に対する理解と児童の正確な実態把握ができないと難しいと思った。しかし、準備は大変だが、それらがうまく機能した場合は、一定の効果もあると感じた。普段、計画性に欠ける児童が、自らの力で計画的に避難経路を考えることができたり、短絡的思考で行動しがちな児童が、くり返し避難経路を考えることで、最適な答えを見つけるために必要な試行錯誤の経験を自然と積んでいた姿がみられた。このような経験は、児童の論理的思考力を育てるためには、有効であると考えられる。